

第17回 東京芸術文化評議会 議事要旨

1 日 時 平成25年6月27日（木曜日）午後2時40分から午後4時まで

2 場 所 都庁第一本庁舎5階大会議場

3 出席者 猪瀬都知事

秋元評議員、浅葉評議員、三枝評議員、野村評議員、花柳評議員、
福原評議員、森評議員、吉本専門委員

4 議 事 オリンピック文化プログラムの具体化について

5 発言要旨

○**福原会長** お忙しいところを皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから、第17回東京芸術文化評議会を開催いたします。

前期に引き続きまして会長を務めさせていただくことになりました福原でございます。どうぞよろしく申し上げます。

本日は、第4期1回目の評議会でありまして、新たに就任された評議員の方がいらっしゃいますので、後ほどご挨拶をお願いいたします。また、猪瀬知事が知事となられましてから初めての評議会でありますので、今日はお出席いただきましてありがたく思っております。本日は、安藤評議員、杉本評議員、蜷川評議員、平田評議員、深澤評議員、宮田評議員の6名がご所用のため欠席となっております。

第4期から就任いただきました4名の皆様を加えまして、13名体制で東京の文化政策をご議論いただくこととなります。また本日は、2020年の東京の文化政策検討部会などの部会長をしておられます、吉本専門委員が出席してございます。どうぞよろしく願いいたします。

ここで猪瀬知事からご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

○**猪瀬知事** 芸術文化評議会の皆さん、お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。新しく加わった方々にもいろいろと新鮮なご意見を賜りたいと思います。2020年オリンピック・パラリンピック招致活動は、いよいよ終盤戦になります。開催都市決定まで、あと72日となりました。IOCは6月25日(火)に評価報告書を公表しました。東京は非常に高い評価をいただきました。今後も都民、国民を含め、これからより求心力が強まっていくことが、勝敗の鍵ではないかと思っております。

来週、7月3日(水)は、スイス・ローザンヌで、テクニカル・ブリーフィングがあります。また、いよいよ最後ですが、9月7日のI O C総会はアルゼンチン・ブエノスアイレスです。ここで、勝負が決まるわけです。この2カ月、東京の計画の優位性と都市力をアピールして、最後の瞬間までチーム日本として全力を尽くしていきます。

立候補ファイルのオリンピック文化プログラムは、芸術文化評議会の議論に基づいて策定しております。それを具体化するため、新部会を6月7日に開催し、各委員からさまざまな提案をいただきました。その中から、7月15日から9月末の期間、都立文化施設の開館時間を週末は午後9時まで延長するというを直ちに実行しました。4月に発表しましたが、渋谷から六本本間の都営バスの24時間運行は、今年の12月に実施します。この時間延長は、都民がアフター5を楽しめる、文化市場の創造につながると信じております。このようなスピード感を持って取り組むことが重要であります。

オリンピック憲章では、スポーツと文化を一体のものとして考えています。ロンドンオリンピックの成功は、その文化力をあらゆる場面で表現したということで、その結果だというふうに思っております。本日は、各界の第一線で活躍されている評議員の皆様、東京の都市力を文化から、これまで以上に押し上げていくアイデアをいただきたいということでもあります。よろしくお願いいたします。

○**福原会長** ありがとうございます。

それでは、事務局関部長から本日の資料の説明をいただきます。

○**関部長** 席上にお配りした資料の次第を1枚おめくりいただきたいと思えます。

資料1は評議員名簿、資料2はオリンピック文化プログラム、資料3は本日の議題でございます。オリンピック文化プログラムの具体化に向けまして、2020年の東京の文化政策検討部会で、各専門委員からご提案いただいた内容をまとめたものです。以上です。

○**福原会長** 本日の議事は、お手元に配付いたしました議事次第のとおり「オリンピック文化プログラムの具体化」に関して、今回はご検討をいただくわけですが、次第に沿って会議を進めてまいります。議事の「オリンピック文化プログラムの具体化」について、これからご説明いたします。

「オリンピック文化プログラムの具体化」についての審議をしていただくわけですが、本件につきましては、第4期より「2020年の東京の文化政策検討部会」を新たに設置し、6月7日に開催された第1回の部会にて、活発な論議がなされたところです。

その論議について、吉本部会長からご説明をいただきたいと存じます。

○**吉本部会長** ありがとうございます。第4期の東京芸術文化評議会に新たに設置されま

した2020年の東京の文化政策検討部会の部会長を務めております、ニッセイ基礎研究所の吉本です。どうぞよろしく申し上げます。

お手元の資料3をご覧ください。

まず、太下委員から初音ミクの話が出たんですが、今世界一持ち歌が多いのは初音ミクだということで、そういったことをアピールしたらどうだろうかというお話でした。

山本委員は、今、病院に入院されている方のケアのためにアート・イン・ホスピタルというのを展開されている。これをオリンピックに向けて、もっと広く展開したらどうかというご意見でした。

佐藤委員からは、コンセプトをどう見せていくか。オリンピックに向けてストーリーをどう展開していくか。その見せ方が大変重要だというお話を伺いました。

わたせ委員からは、日本はアニメ、漫画の国なのに、羽田や成田に到着しても無味乾燥としている。アニメのキャラクターが迎えるような、そういうゲートはできないのかという、非常にユニークなアイデアをいただきました。

東委員からは、テクノロジーそのものが文化だと。これを日本の強みとして打ち出してはどうかというご意見でした。

日比野委員からは、上野をもっと強化したいということと、オリンピックが来ると、文化プログラムがいっぱいできるんだということをもっとアピールすべきではないか、というご意見でした。

北川原委員からは、今、上野は世界的に見ても大変な文化の集積地でありますけれども、一つ一つの文化施設に塀がある。それを取り払うだけで相当なことになるのではないかとご意見でした。

勝間委員からは、文化プログラムがあるということがやはり知られていない。9月までに具体的なものを作成して、それをアピールしたらどうかというご意見でした。

田嶋委員からは、街中のビルでさまざまなライトアップ、ロゴ、シンボルカラーなどで、祝祭性を出してはどうかというお話でした。

北川委員は教育の立場から、オリンピックはスポーツと文化と教育三位一体ということですので、教育の分野から言語力テストのようなものをしてはどうかというご提案がありました。

熊本委員からは、山本委員の発言にも通じますけれども、老人ホーム等でピアニストと入所者が一緒にピアノを弾けるなど、そうしたプログラムを展開してはどうかというようなお話をいただきました。

駆け足ですけれども、私からの報告は以上です。

○**福原会長** ありがとうございます。事務局から補足がありますでしょうか。

○**関部長** 事務局からご報告をさせていただきます。

知事からもお話がありましたとおり、都立文化施設の開館時間の延長につきましては、7月15日の週から9月末までの間、東京都美術館、東京都写真美術館などの4施設を週末の金曜日など夜9時まで開館することといたしました。

次に、都民とともに五輪みこしを制作いたします。開催地決定直前に上野公園を練り歩くことで招致気運を盛り上げてまいります。また、東京都美術館と上野の文化施設が連携して「Museum Start あいうえの」を8月から開始いたします。子供たちが学生ボランティアと一緒に、美術館や博物館、動物園などを楽しむプログラムなどを実施してまいります。

そのほか、アート・イン・ホスピタルの都立病院での取り組みの拡充や、日本が世界に誇るアニメ文化を活用して、羽田空港の国際ターミナルで観光客をお迎えするなどのことについて、早期に実施してまいりたいと思っております。

こうした取り組みをスタートといたしまして、文化の力で賑わいを創出し、オリンピック開催実現に向けた気運を盛り上げてまいります。説明は以上です。

○**福原会長** ただいまのご報告のとおり、いろいろ進行しているところです。

オリンピックというのは、言うまでもないわけですが、スポーツの祭典であると同時に、世界中の文化の祭典でもあるわけです。スポーツと文化というのは一体となって位置づけられているわけです。そこでオリンピック文化プログラムの具体化に当たっては、ロンドンオリンピックの成功事例に学び、それを越えるものを創っていくことが必要だというふうに考えています。開催都市決定後にプロデューサーを選任し、しっかりした体制を構築した上で議論していただきたいと考えています。

あと72日というオリンピック招致を日本全体でさらに盛り上げていくわけですが、9月7日にブエノスアイレスでI O C総会が開かれます。今すぐできることをそれまでにやらなければいけないという問題と、それから開催中に実際何を盛り上げていくかという問題と、開催後にオリンピックを離れて東京の世界における文化の地位を高めるという、我々はこの課題を抱えているわけです。

そこで、評議員の皆様から、オリンピック文化プログラムの具体化について、現段階の、今までお聞きになったところで、ご意見、ご提言等を自由にご発言していただきたいと存じます。花柳評議員からよろしく申し上げます。

○花柳評議員 これは1つの例ですけれども、日本舞踊とオーケストラのコラボレーションを東京文化会館でやります。この公演は去年やったものです。去年好評だったことから、今年もやる事になりました。今年は10月3日ということなので、9月7日までには間に合わないと思うんですけれども、こういうことも1つの方法だと思います。

それから、10年近く前だと思うんですけれども、盆踊りが各地区で下町を中心に大変はやっているんですけれども、年寄りが多くて若者は余り参加できないというので、若者が参加できやすい、新しい盆踊りをつくってくれと言われてまして、「新東京音頭」というのをつくりました。それを各地区、学校とかいろんな団体に教えにいきました。相当な参加者があったようでございます。

今風な、昔の「東京音頭」の歌詞はそのままですが、若い人が作曲、いわゆるロック調で若者に非常に向いているというか、そういうもののパレードみたいなことをやったらどうかなと思います。

○福原会長 ありがとうございます。野村評議員、どうぞ。

○野村評議員 前回も文化の側面から全面的に協力させていただきたいということは、発言させていただいたのですが、やはりスポーツを愛する若者が、文化も共に愛する。こうした仕組み作り。都立高校で、選択科目に芸術文化を選んでいる学校は全体の30%ぐらいで、その中にはお茶やお花、いろいろあると思うんですけれども、そうした高校の若者たちを動員するということは考えられないだろうか。

私たちが積極的にお手伝いするというと同時に、若者が参加できるような仕組みを、ぜひ少し教育の場からお考えいただけたらありがたいなと思います。以上です。

○福原会長 ありがとうございます。若者という意味では、今の花柳評議員のアイデアと共通するところもありますが、教育を通じてというのは、また違う観点だと思います。ありがとうございます。浅葉評議員。

○浅葉評議員 1964年の東京オリンピックは、デザインの力がものすごく発揮されたと思うんです。

東北の伝統工芸が優れているので、去年パリで展覧会をやったんです。屏風とマトリョーシカとブランクーシのこけしを漆器や天然木で製作して持っていったんです。屏風はすぐに完売して、新しいデザインのビジョンが欲しいというときにこういう柔らかいアイデアのものはどうかなという感じがあります。

納富介次郎という人がいて佐賀出身、佐賀藩です。この人が1873年のウィーンの万博に行ったんです。そのときのテーマがデザインだったんです。僕は、もともと図案とい

う言葉があって、それが進化してデザインになったかと思っていたんですけども、まずデザインがあって、それを苦心して、「デザインを日本語にどう訳したらいいか」ということで「図案」にしたんです。「デザインとは何か」ということはなかなかわからないんですが、日本語で「図案」というのは、優れているなという感じがしています。伝統工芸に力を入れるべきだと思っています。去年のパリの展覧会に向けてその3点を製作しましたが、大きな屏風は300万円で売れました。昔、腕木通信というものがあまして、ナポレオンが使っていた通信手段なんです。10キロごとに小屋をつくって、その上に、時計の技師が作ったABCが設置されていて、みんな動くんです。発信基地はルーブル宮で、イタリア全土、アフリカまで行っていて、北はオランダまで行ったという。ナポレオンが強かったのは、この情報手段が有効に使われたからじゃないかと思うんです。

これは残念ながら日本には入ってこなかったんですけども、これで「PARIS」と打つんです。腕木通信の文字で打つとこうなります。

○猪瀬知事 デザイン通信みたいなものですか。

○浅葉評議員 ええ。手旗通信の機械通信版みたいなものだと思うんですけども、残念ながら日本には入ってこなくて、今、リヨンに1基だけ残っているみたいです。

フランスの方がこれを見てすぐにわかって、PARISと描かれた屏風が3万ユーロ、300万円でその日のうちに売れました。結構伝統工芸は売れるなと思って、デザインの新しい鉱脈になりそうだというふうに思っています。

○猪瀬知事 それはどこでオリンピックとつながるの。

○浅葉評議員 オリンピックにこういうものを見せるというか。

今日、都庁の入口に入ってきたら、熊手がありました。外人が一生懸命見ていましたが、ああいうものもいいなと思うんです。

○福原会長 すみません。納富介次郎さんについて、少し説明していただけますか。

○浅葉評議員 日本に工芸学校をたくさん作った方です。佐賀とかいろんなところに工芸学校をつくった人で、デザインという言葉が一番最初に理解した人なんじゃないかなと思うんです。10月に伝記が出るらしいです。

○猪瀬知事 要するに、19世紀のヨーロッパ文化の万博ブームのときに、日本から出展したという。

○浅葉評議員 そうですね。

○福原会長 ありがとうございます。それでは三枝評議員。

○三枝評議員 発表があるまでのことと、決まってからのことが、大きく分けて2つある

と思うんです。

一応私が考えましたのは、銀座の端から端まで双方からパレードをしまして、真ん中の4丁目で日比谷公園へまっすぐ抜けていくという、ちょっとT字型の大きな、皆さんで手を組んで、オリンピックを招くということのを待っていますというようなことを、日比谷公園まで行くわけです。日比谷公園で何をするかというと、200カ国参加国全部のブースをつくりまして、そこのお酒と食べ物を、その国のきれいな女性ときれいな若者がそこに集まって夜まで、できたら本当は24時間やりたいです。24時間酒を飲む、あるいは、その国の大きなテーマみたいなことを、つまりその国を知る。

これをできるだけ、1回だけでなくオリンピックが続く間まで毎年やれたら、あるいは1週間やる。つまり世界中の人とお互いに知り合おうよ。そして、盛り上げるためにはパレードをする。これは記事として世界に発信できるんじゃないか。

できたら100万人ぐらいの人が、銀座の両端から50万人ずつぐらい行って、50万人の人が一緒になって100万人になって、日比谷公園に行く。これが事前にできる一番簡単な方法かなと思った。屋台をつくるだけですから、1週間もあれば180ぐらいの屋台、日比谷公園につくることのできるだろう。みんなでお互いに交流できる場をつくれたら非常におもしろいと思っております。それが1つ。

さっき初音ミクのお話が出ました。初音ミクというのは日本の生んだ、テクノロジーと文化の融合という、どこの国も作れなかったことができていると思います。テクノロジーを使ったミュージカルをやりたいと私は思っているんです。バーチャルミュージカルです。初音ミクも架空ですよ。コンピューターで作曲をして、ヤマハなどから出ているボーカロイドという音声ソフトを使うんです。

初音ミクが今、全世界で大ブームを起こしている。サンフランシスコ、ロサンゼルス、上海、台湾、シンガポール、ドイツ、フランスでもう大人気になっています。これは不思議な新しい、外国で創造し得なかった文化だと私は思う。これをもう一つ言いますと、作曲の勉強をしていなかった子が、コンピューターで音楽をつくって動画サイトに投稿するわけです。使う和音はわずか2コードです。それがいい曲だと、視聴した人たちから「いいね!」、「いいね!」というコメントが寄せられる。そうすると、それがCD化される時代になったのです。つまり今の世の中、メジャーになるものを選ぶのは大衆なんです。そこにはプロは介在していないんです。全く素人の子が作曲をしてインターネットに載せる。それを観た不特定多数の人が「いいね!」と思ったら、それが製品化されるという、これは今まで日本にも、どこの国にもなかった出来事。これは1つの文化だと思うし、経

済の新しいあり方で、選ぶのは君たちだよという文化ができています。

実は、ロンドンオリンピックの公式テーマソングを歌うアーティストに初音ミクを、と全世界のファンが叫んだんですが、実体のない歌手を呼ぶなんてとんでもないとオリンピック委員会が却下してしまい、一時、ネットの世界ではかなり物議を醸しました。そういう意味では、世界中の人間が非常に興味を持っているこの新しい日本人が創造した文化を、この際持っていけたら嬉しいなと思います。

それはこの9月まではちょっと難しいような気もするんですけども、それ以降にオリンピック大会が起こるまでに、そういうものがつくれたらいいな。

あといろいろ考えました。簡単に言いますと、東名高速道路を開放してF1レースをする、東京一名古屋間あるいは大阪でもいいです。というのといろいろ考えました。

もっと簡単なことを言いますと、今東京にはオーケストラが9つあるいは7つ8つ、何とも言いようがないんですけども、大きなものが8つございます。ここにいるトップのメンバーは、世界的に全く遜色のない人たちです。この人たちを選抜して、東京だけのオーケストラをつくりますと、多分世界で3本指、オリンピックに出れば多分優勝できるようなオケが存在します。それが今、力の分散をして7つか8つに分かれてしまっている。これを一つに結集して、世界中に日本は西洋音楽も、ここまで勝てるんだぜということを、もしこの期間に世界を回れたらおもしろいなあと思っています。なぜオーケストラかといいますと、西洋人は自分たちと同じ土俵に立っていないものは、評価しないからです。

そのほかいろいろ考えていますけれども、とりあえずやれることは何だろうと考えたときに、まず行進、そして日比谷公園集結。そこでいろんなものを食べる。食べると楽しいですから、1回、100万の方が集まる。それはもちろん有料ですけども、200カ国の文化、すなわちお酒と食べ物を知るといって、いい機会になると思うんですね。できたら24時間やりたい。

地下鉄も24時間動くとうれしいなと思っています。私は長い間ずっと思っていました。大都市で動いていないのは日本ぐらいですよ。ニューヨークもパリもロンドンも動いているのに、なぜ日本は動かないんだろうとずっと思っていました。

そういうことも含めて、提案したいと思っています。

○**福原会長** ありがとうございます。それでは秋元評議員、お願いします。

○**秋元評議員** やはり、芸術とか文化というのは、どうしても一般には分かりにくい、伝わりにくい部分があるんじゃないかと思います。

あと1～2カ月ちょっとの中で何ができるかと考えたのは、『東京オリンピックが来る』

ということを願って祈って、あるいは、そこには日本も世界も平和を祈って、よくやる手ですけれども、東京都民全員、1回明かりを消そうと。都民が力を合わせると、こんなことができるんだというのを世界に見せたい。

これはなかなか普通の都市では、みんなが力を合わせてとか、よしやろうというふうにならないんですが、成功を祈って、例えば9月1日なのか8月の何日なのか。この何時から何時、みんな部屋の明かりを消して会社の明かりを消して、ネオンを消してどれくらい消えるのかとやったときに、「ああ、日本、東京の都民たちはすごいんだね」ということが世界にアピールできるのかもしれない。それはつまり思いですよ。私たちにはこんな小さなことかもしれないけれども、電気のスイッチを一つカチャンとおろす、その作業をみんながオリンピックの成功を祈ってできるんですというのをまず試してみたいなど。私たちは、みんなが力を合わせることができるんだ、と。

それから、実際に2020年東京オリンピックになったときには、一般の人たちがどれだけ歓迎できるか。“歓迎”を考えるとということだと思えます。歓迎とは何か、それは例えば窓枠に「ようこそ」と書くのか。そこには提灯を下げるところもあるだろう。例えばどこかのビルでは外国から来た方に、「いらっしやい」という言葉をかけるだけかもしれない。あるいは電話をある会社の人が受けたときに、その電話の最初の受け言葉は「東京オリンピック開催地の〇〇社の〇〇です」と必ず言うとか。つまり自分と東京オリンピックがどうかかわっているかということを全員が思って、自分ができることは何だろうと考え、簡単に実行できるようなこと。

クリスマスだったらみんながリースやツリーを飾ったり、ジングルベルを流したり、何か街がクリスマスモードになります。あれにかわる、オリンピックが来てくれてありがとう、世界の人が来てくれてありがとうというものを、みんなでやろうよといったときに、もしかしたら家庭では、お父さんとお母さんと子供が相談して、うちは何をするとか。うちはこういうことをやろうとか。五輪用の何かをイメージして、自分たちで絵を画いてそれを貼ろうよということかもしれない。出来るだけみんなが参加しやすい、日本の、あるいは東京を愛する人たちが世界をお迎えするということ、楽しくできるようになったらいいなと思います。以上です。

○福原会長 ありがとうございます。それでは、森評議員。

○森評議員 今、秋元評議員がおっしゃったことと重なると思いますがけれども、さっき三枝評議員が初音ミクのお話をなさって、実体のないバーチャルなものに、どうしてあんなに何万人の人がライトを振るのかわからないとおっしゃった。それは、自分も作曲をして

投稿して、それが何らかの形で反映される。自分も参加するということが一番大事で、みんながやる気を持てることだと思います。

今年で4回目になりますけれども、私どもは六本木アートナイトを初回から東京都と共催でやらせていただいています。最初は50万人、今年は83万人とだんだん増えていて、今年83万人の人が集まったんです。

美術館の中で見るだけではなく、アートも外へ出てみんなで参加して、みんなが提灯を持って行列するとか、一緒に揺らしてやるとか、自分が参加することでどんどん人が集まる。そういう参加型のもの、パレードや新しい形の盆踊りなど、また大勢の人から投稿させて初音ミクにオリンピックのテーマソングを歌わせる等、考えて盛り上げたいと思っています。

○福原会長 ありがとうございます。皆さんからご意見をいただいて、非常にバラエティ豊かで、しかも夢のあるご意見をいただきました。

とりあえずはそういった初音ミクのような、全く世界にない、アニメとも違う、日本の特長みたいなものをどうやって催しの中に実現していくかということもあるわけですが、とりあえずの問題として、6～8月の間に、簡単に言えば7月、8月の間に、何が現象としてできるかと。考えようによっては小さなものも、盛り上げていかなければならない手段の1つであるというふうに考えるわけです。

ここまで聞いて知事のご意見を伺いたいと思います。

○猪瀬知事 2020年オリンピック・パラリンピックの時までに何をするかということと、今年6月7日のブエノスアイレスまでに何をするかと、2つの大きなテーマがありますが、今回は特にあと2カ月しかないので、今すぐやれるものは何か、出来るものは何か絞ったほうがいいかと思います。

まずは、三枝評議員からも提案がありましたが、各国180、オリンピックは200カ国ぐらい、大使館は180ぐらいあるかもしれません。各国大きな大使だけでも100ぐらいあります。そういうブース、B級グルメみたいな感じのイメージとしてはよくあるんですが、各国の旗を立てて、それを例えば日比谷公園や東京ドームでやることで、一つのイメージが盛り上がっている感じが出れば一番いいと思います。

その中に例えばパレードを組み合わせたとか、今、三枝評議員のおっしゃったようなことを付度すれば、夏の銀座、去年の夏の銀座パレードをもう一回再現していいわけです。

秋元評議員のおっしゃられた、電気をみんなで消してくれるか。しかし僕の部屋を消すことはできるが、ビルとかそれはどうするんだろう。

○秋元評議員 現実的にはなかなか難しいですね。ただ、3回やって1回目は全然だめだ

ったねといって、その次また1週間後にやったら前回より暗くなっているんじゃないかということかもしれません。決して明かりがいいとは思いませんが、何かそういうみんなのできることなんですよ。

○三枝評議員 10秒でもやればいい。

○猪瀬知事 消すよりつけるほうが楽なんだけれどな、ついているからしょうがないんだけれど。

○三枝評議員 東京中が10秒消えると、きれいですね。

○猪瀬知事 時差がわずかに皆あるから、放送でも1秒か2秒のタイムラグでも結構大変じゃない。だから10秒って厳しい。

○秋元評議員 結局、世代が分かれていて、あるいは思考も分かれている人たちのそれぞれ全員が参加しないとつまらないと思うんです。実際、場所的・環境的に行ける人、行けない人がいる。ネット上でもパレードがあると、そこに自分のアバターなのか何かで一緒に歩くことができる。それぞれみんながパレードするという中で、何か違うかたちでも参加できればいいと思うんです。

○猪瀬知事 そのほうがいいかもしれない。一度に電気を消すというのは若干、いろんな現場があるから、水道や工事や地下鉄は現場、現場で動いているから。ちょっと難しいところが都市機能の問題としては、あると思う。今ネットで参加するとか、どれだけ参加できるか、みんな参加感が欲しいわけですね。そのほうが少し前向き感があるよな。

○福原会長 色々ご意見を頂いたことがありますし、非常に多岐に渡っています。これを事務局なり吉本部会長とさらにご相談して、幾つかできるものがあれば、それをやっていくということにすべきだというふうに考えています。

○猪瀬知事 森評議員の六本木アートナイトの時は、バスの終夜運転も組み合わせた。六本木アートナイトは3月に終わったが、8月にもう一回やりたいね。

○森評議員 盆踊りの時期ですね。その広がりを持たせたら現実的かもしれない。

○猪瀬知事 あれはアートナイトとは違うけれども、何か考えられるかなど。そういうときバスは臨時便、終夜バスを出すということ。高円寺の阿波おどりが8月20日ぐらいでしょう。それから、浅草のサンバカーニバルは8月31日かな。お盆が開けるとみんな帰ってくるので、そのあたりに固まっているみたいですね。こういうパレードを9月1日ぐらいにやるといいかもしれませんね。

○福原会長 何かをとらえてそういうことも可能だということになると思います。

それから、先ほどの初音ミクとかそういう話については、9月7日にこだわらず、仮に

オリンピック招致が実現するとして、オリンピックの来る前にそういうこともやって、だんだん盛り上げていくということも可能だと思います。

○猪瀬知事 初音ミクについて、僕はいまいちよくわからない。映像は知っていますし、でも余り身近にいないのでよくわからないんだけど、これはどういうふうに使えるわけですか。

○三枝評議員 ヤマハの初音ミクのボーカロイドソフトは、クリプトンという北海道の札幌にある会社が開発したソフトです。全体を運営しているのはセガサミーだと思います。セガサミーがコンサートや何かを仕切っています。

すごく面白いところは、音楽の勉強をしたことがない人が、音楽的教養が全くなくても曲が書けるということなんです。コンピューターが使えないとだめですが、誰でもソフトが手に入られて、曲が作れる。歌詞も自分でつくる。曲のアイデアが浮かんでも、プロでなければ歌ってくれる人間もミュージシャンもスタジオも手配できないし、世の中に発表する手段がほとんどなかった。レコード会社は取り上げてくれないんです。それを今は初音ミクのようなソフトとインターネットの発達により、アイデアさえあれば簡単に楽曲を作れる上に、家にいながらにして全世界の不特定多数の人に聴いてもらえるわけです。

日本だけじゃなくて、今、トヨタのアメリカのコマーシャルにも初音ミクが登場しています。そういう意味でも、全世界的になっている。

今まで欧米が持っていた思考と全く違うものが、初音ミクで代表される。アニメもそうだと思います。サブカルチャーがカルチャーになっているんだなということのおもしろさを、このオリンピックで知らしめるべきじゃないかと僕は思っています。

○猪瀬知事 それで、初音ミクとオリンピックを、今すぐ何ができるの。

○秋元評議員 もちろん初音ミクをリアルな感じでやるということもあるんですけど、もしかしたらボーカロイド、つまり初音ミクがおもしろいのは、本当にみんなが曲を作るんです。そして、みんなが作った曲を彼女が歌うわけです。そこで、初音ミクがもしも東京オリンピックのテーマソングを歌うとしたらどんな曲がいい、初音ミクにどんな曲を歌わせたいということを募ったら、それがもしかしたら、すごい数が集まると思います。みんなこういうのがいいんじゃないかと。

○三枝評議員 視聴者と作家が直結しているという、すごいことが起こっている。これは今まで世界中でなかったことです。つまり、作品ができれば誰でも発表できる。2コードあれば十分です。東京都が公募する方法もあるけれども、そんな画期的な文化が日本から発信されていることを何らかの方法で世界に知らしめるのも、よいと思います。

画期的なことは、これが今までなかったシステムであるということなんです。つまり作った人間とそれを享受する人間が、以前はその間に介在したレコード会社や音楽出版社、問屋や小売店というシステムを越えちゃっているということが、新しいアートのあり方であるといえます。実はこういうアマチュアが作った楽曲は、著作権が取りにくいんです。流行ってCDをつくった途端にもう消えているという、ややこしい問題がいっぱいある。テンポがものすごく速い。

○森評議員 初音ミクが歌って踊っているのを、あっ、あれ、私のだと、投稿した人は思っているんですけども、見ている人は誰だかわからない。

○三枝評議員 作詞者・作曲者が誰かなんて全然わかっていない。

○秋元評議員 かなりクオリティは高いです。例えば、絵にしてもいろんな絵師がいるんです。絵師が背景とかいろんなものを作るんです。これもすごいですよね。

○福原会長 さて、いろいろアイデアを頂戴したんですけども、72日間で何ができるかという問題と、それにかかわらず、今のようなものをどうやって組み立てていくかという問題と。もう一つは浅葉先生が言われたように、前の東京オリンピックで、1つの日本にデザインのブームができたように、この際、ミラノデザイン、カリフォルニアデザインというのがあったように、新しい東京オリンピックを象徴するようなデザインがあるべきだと思うんです。それは、開催までの間に固めなければいけない問題だと思います。というようなことでよろしいでしょうか。

今日はいろいろ皆さんの力強いご意見、またアイデアあふれるご意見をいただいてありがとうございました。これを事務局でもう少し具体的なものにまとめていく必要があるかと思いますが、第17回東京芸術文化評議会は、これで終了させていただきます。

ありがとうございました。

以上